

# 鉄場

OSAパイプ部会 宮脇 健 部会長

## 来年は新国立と「弾み」に期待

▽：(大阪) 大阪鉄鋼流通協 械向けが低調だったものの、産 た、スクラップ市況下押しの影響から鋼材市況が統落したなかで「ゼネコンも遅らせて良い案件を遅らせたことから工期のスレが発生し、鋼材の動きを抑えてしまった観もある」。そのため「今年は様々な歯車が噛み合わずに1年が過ぎていったイメージだ」とのこと。

▽：来年のパイプ市況は一部を除きしばらく弱含みで推移する見通し。需要は海外向けが一般的に低調、国内向けは建機向けが低調、産機向けや工作機械向けは比較的堅調に推移する見通しだ。また、建築向けについては「新国立の建設工事が起爆剤となり、遅れている別の建築案件の動きにも徐々に弾みがつくはず。能力問題から過度な期待は禁物だが『建築費が安く済むうちに』という動きにも期待したい」と部会長は語る。(末)

落、溶協の丸パイプは秋に5千円の下落、高炉品は横ばいを維持した。全体的に弱含みが続いた」と説明する。

▽：需要動向を振り返ると、まず円安環境下ながら中国を中心とした海外需要が低調に推移した影響で輸出向け製造業の販売動向は押し並べて低調だった。しかし、国内需要は建設機

▽：ただ、建築向けがそこそこ堅調だったとはいえ、ゼネコンやファブリーケーターが決まっているなかで新国立の建設が白紙に戻ったことは、パイプ業界にも多少なりとも影響があった。実際、部会長の会社のように「本決まりではないが、加工のスケジュールを抑えておいて!」と

## 金属表面検査装置を高機能化

コイルセンター向けなど拡販へ

コイルセンター、鋼板メーカー向け金属表面画像検査装置などの大手製造販売会社、ヒューテック・オリジン(高松市)は、表面検査の高精度化やグローバル化に対応した機能向上に取り組み、新鋭表面検査装置の拡販に注力している。

最近コイルセンターでは韓国材、中国材など海外製の鋼板の加工が増えており、表面検査にも一層の高機能化が求められている。例えば①鋼板表面の油を検出せずに欠点のみ検出したい②電磁鋼板の場合、凹みなどの欠点と穴あきを弁別したい③微小な欠点の密集度を判定したい④黒皮の下の欠点のみ検出したいといった要求があるという。従来のコスト低減や安全性という要求に加えて、グローバル化のための表面検査装置導入注文も増えている状況とされている。

同社では、こうした要求に対応して、格子照明などの新型照明および画像処理ボードのフィルターなどの補強・見直しなど改善を加え、バージョンアップ装置を

商品化している。同社ではこれまで、コイルセンター向けを中心にスリッター・レベラーライン用表面検査装置(CCDカメラ方式)を約60式納入している。

■日立製作所と日立金属は11日、情報処理装置のデータ処理能力を10倍以上向上するセラミックパッケージ基板を開発したと発表した。配線幅、配線間隔がそれぞれ2μmと微細な配線層を形成した低温同時焼成セラミックパッケージ基板。同基板上にLSIとメモリを搭載して、その間を1千本以上の配線で接続することでデータ処理能力を大幅に向上させた。

### パンチング メタル

**厚 0.6mm~6mm**  
各サイズ常時在庫

丸十・丸角・菱・十字・長丸等各穴  
ステン・アルミ等特注品  
曲加工・部分打抜・塗装・メッキ

---

その他鋼材全般  
**新星鋼機(株)**  
大阪市西区北堀江4-13-13  
電話06(6538)1381番代表